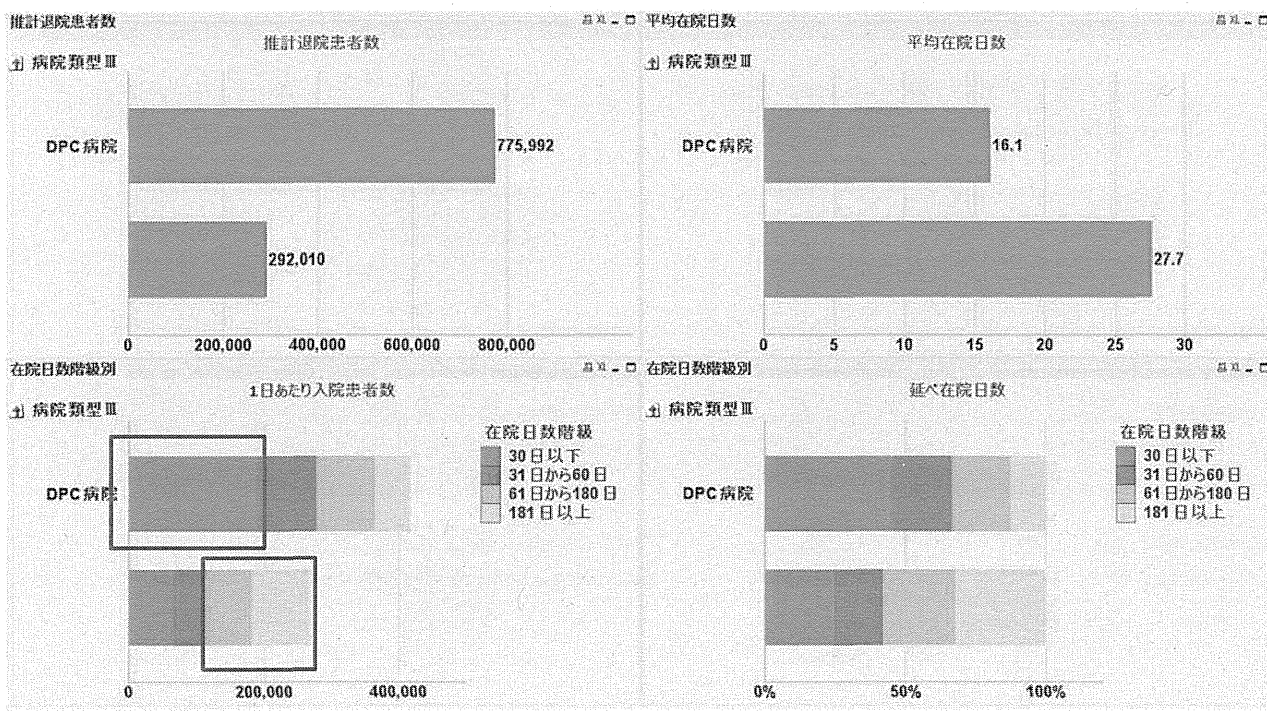


## 結果2. DPC病院と非DPC病院の一般病床の基本的な機能の相違に関する分析

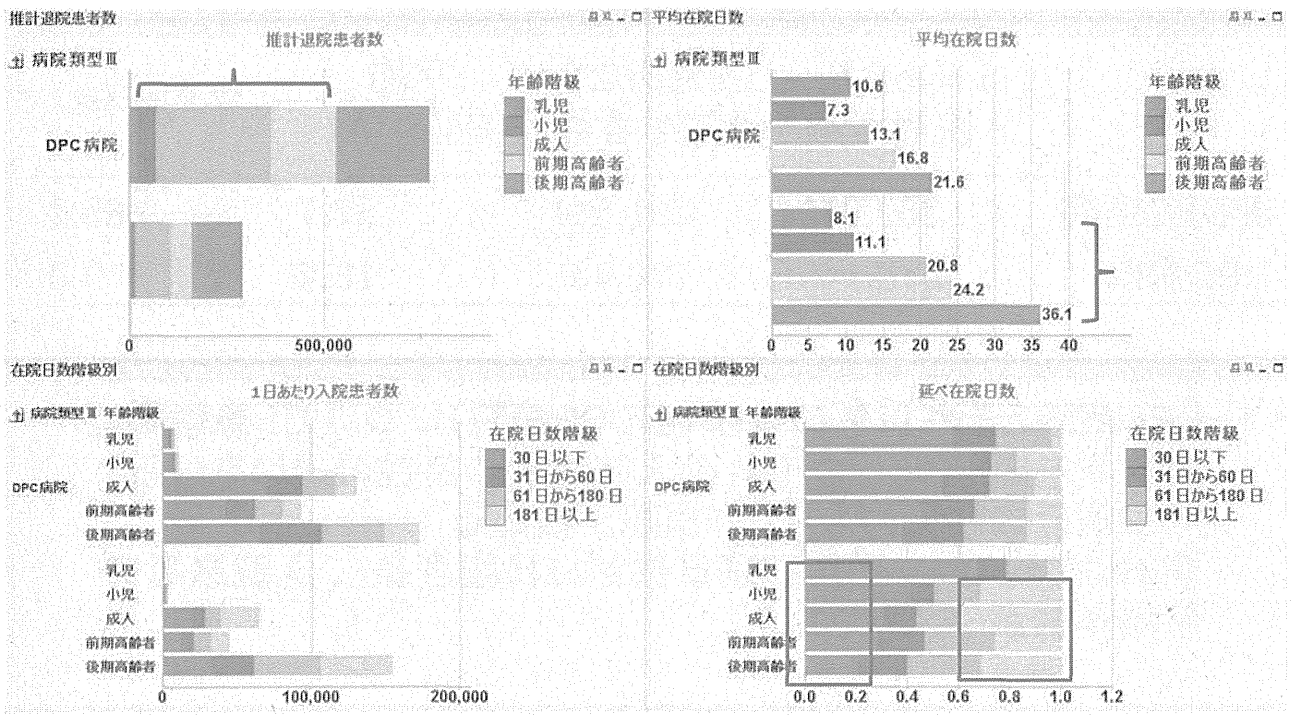
	1日あたり 入院患者数	1ヶ月あたり 退院患者数	平均 在院日数	平均年齢
非DPC病院	269,072	291,541	27.7	65.2
DPC病院	418,143	776,461	16.2	59.0

- DPC病院とそれ以外の病院(非DPC病院)について、患者調査退院票を集計し、それぞれの入院患者の特性の違いを分析
- 一般病床の約3分の2をDPC病院が占める
- 非DPC病院では、平均在院日数が11日程度長く、入院患者の平均年齢が6歳程度高い

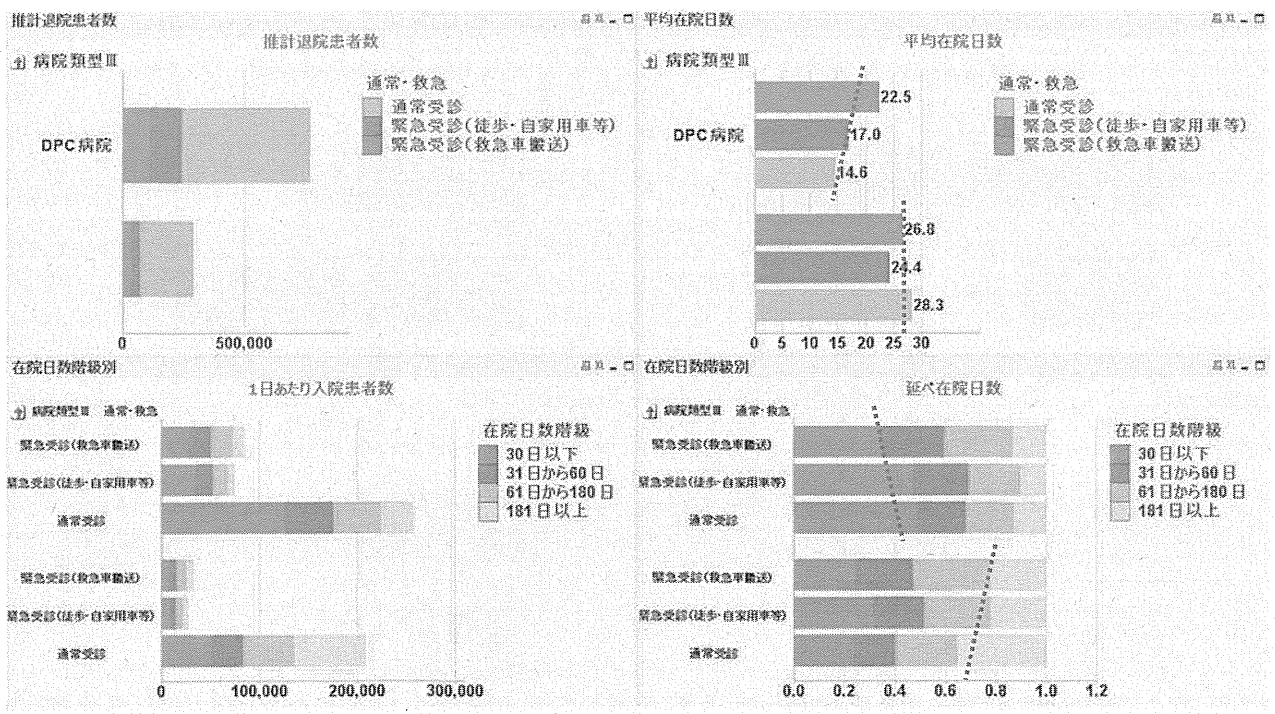
## 結果2. DPC病院と非DPC病院一般病床の状況



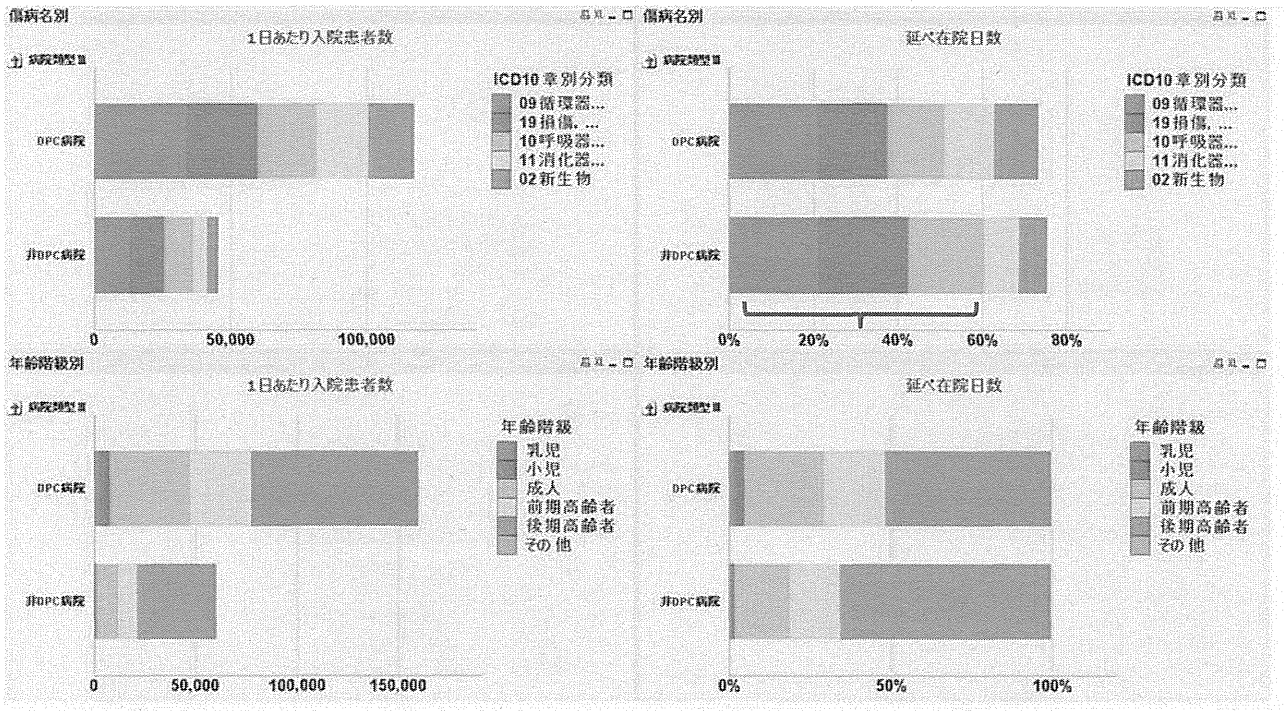
## 結果2. DPC病院と非DPC病院一般病床の入院患者の年齢構造



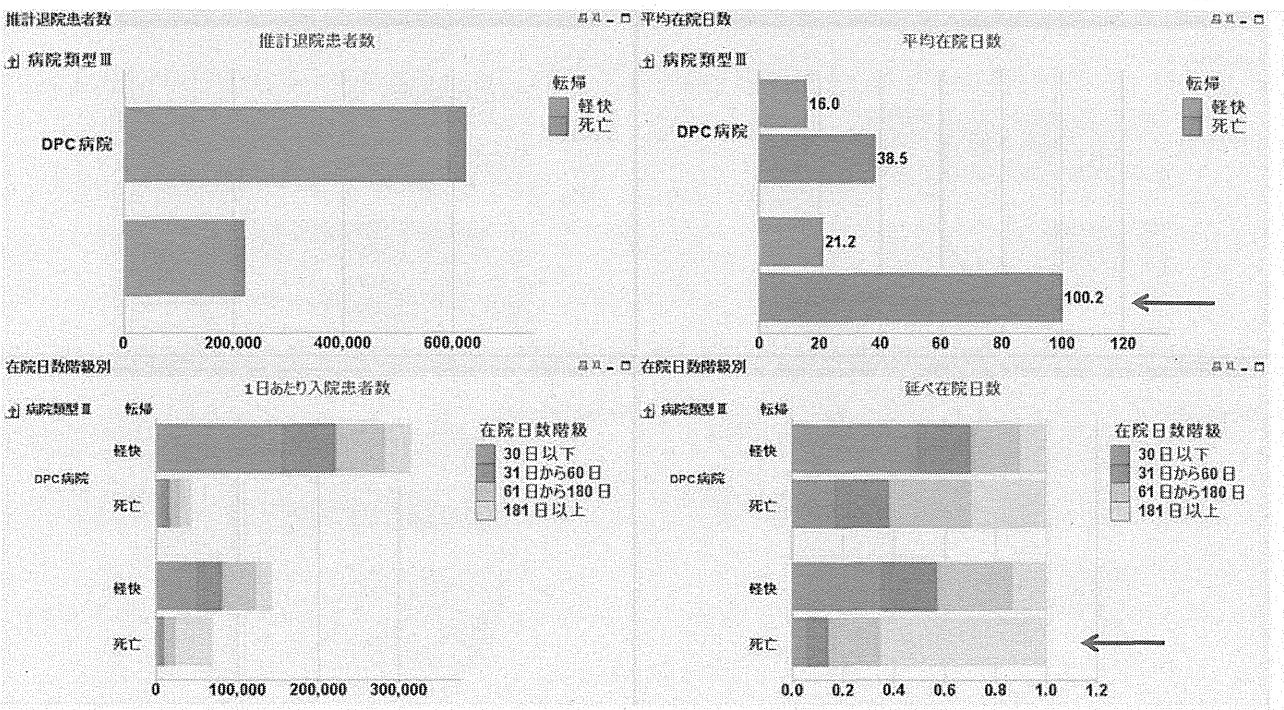
## 結果3. 一般病床のDPC病床と非DPC病床の救急医療の状況



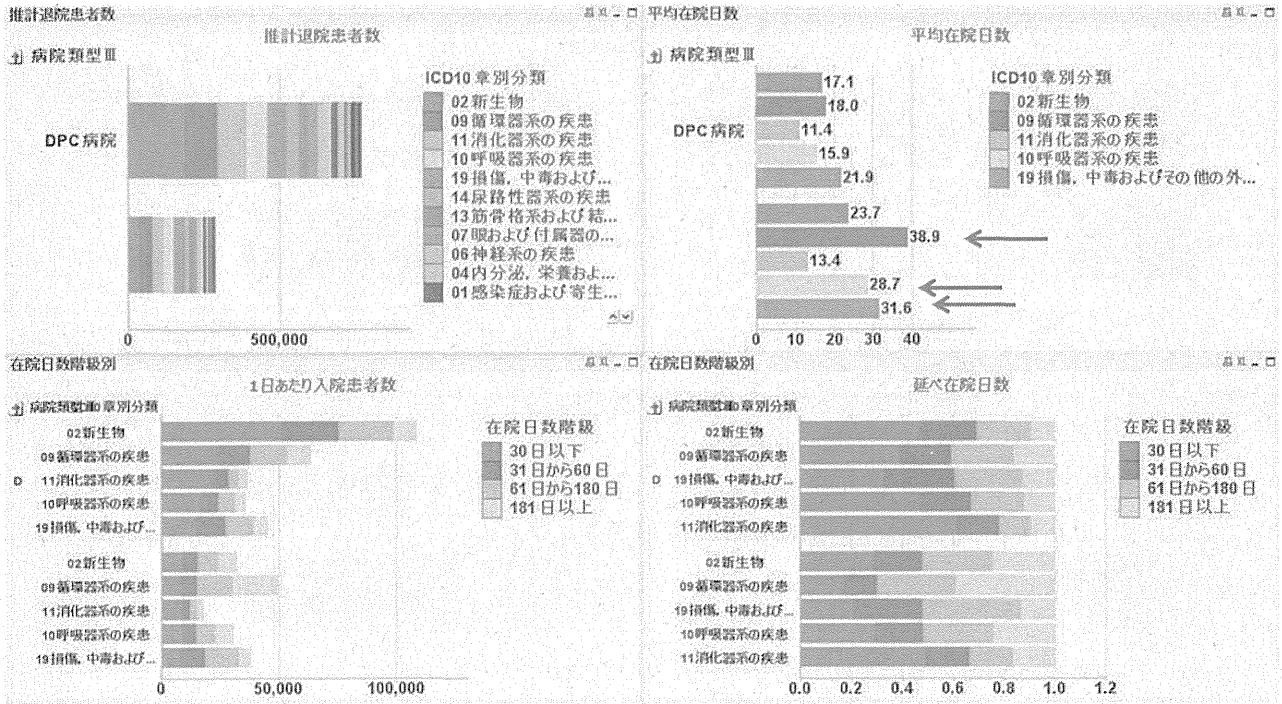
### 結果3. DPC病院と非DPC病院一般病床の救急患者の傷病構造の状況



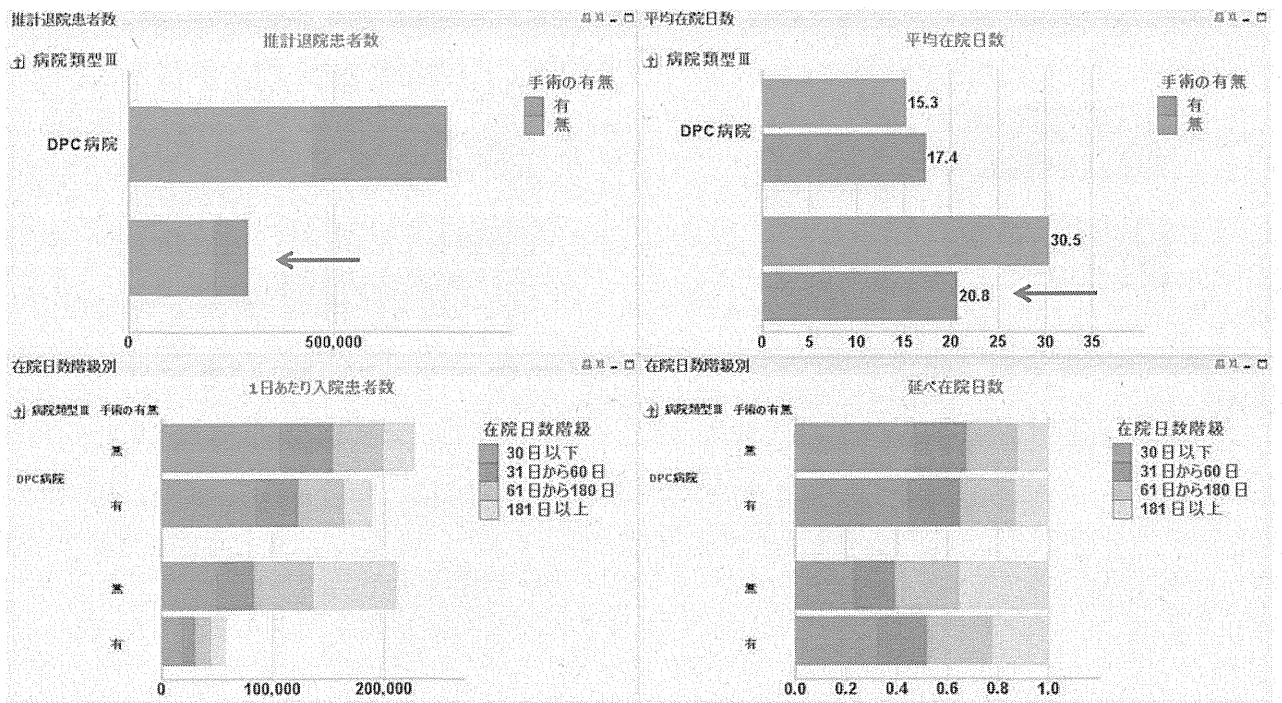
### 結果4. 一般病床のDPC病床と非DPC病床の死亡患者の状況に関する分析



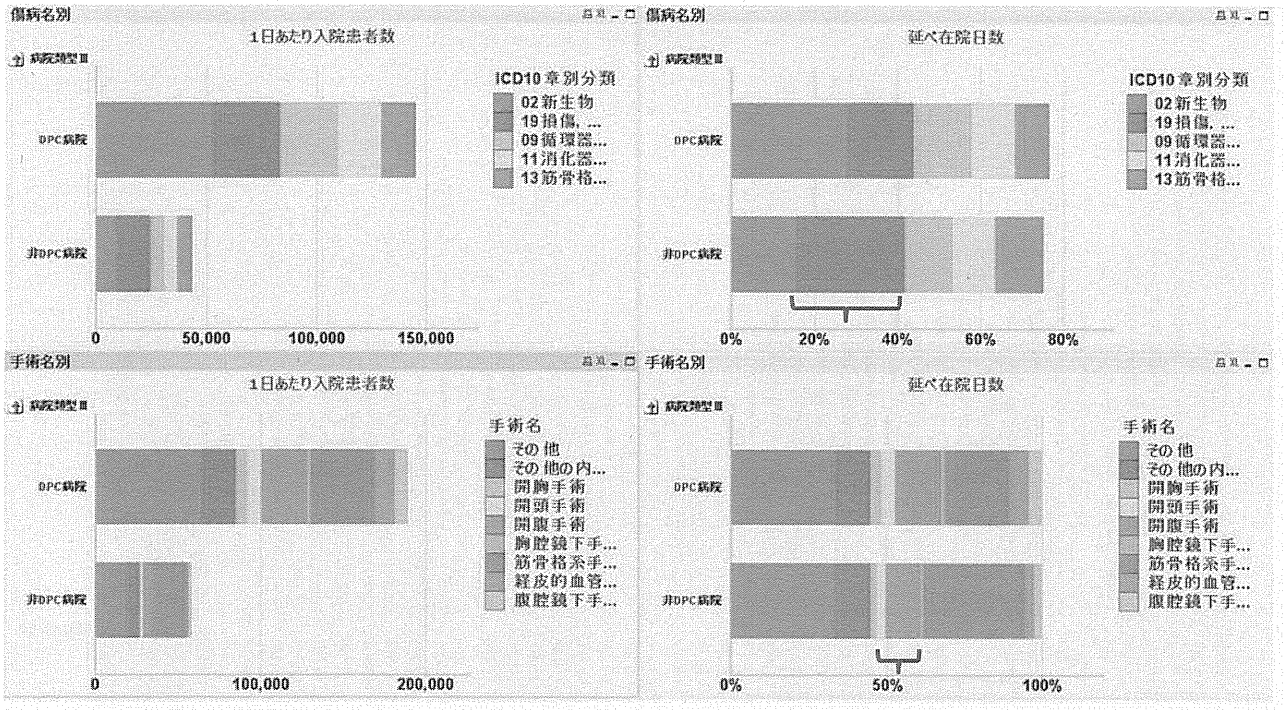
# 結果5. DPC病院と非DPC病院一般病床の入院患者の傷病構造



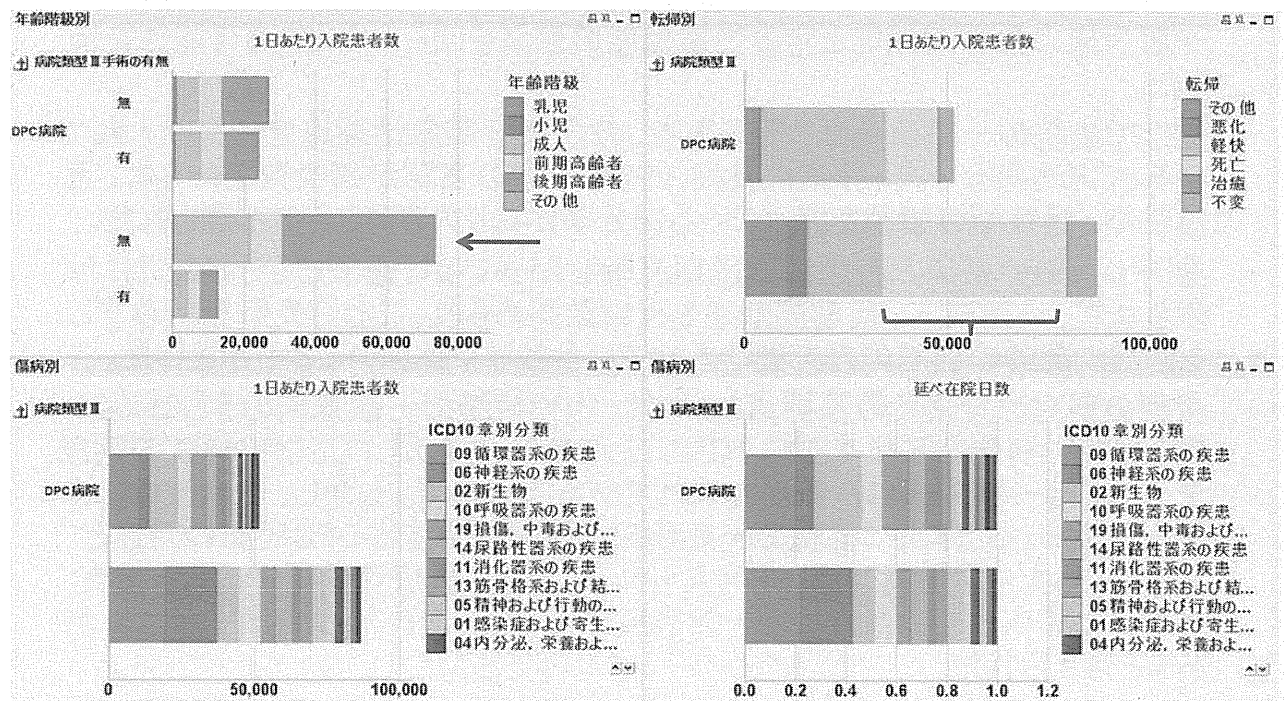
# 結果5. DPC病院と非DPC病院一般病床の手術入院患者の状況



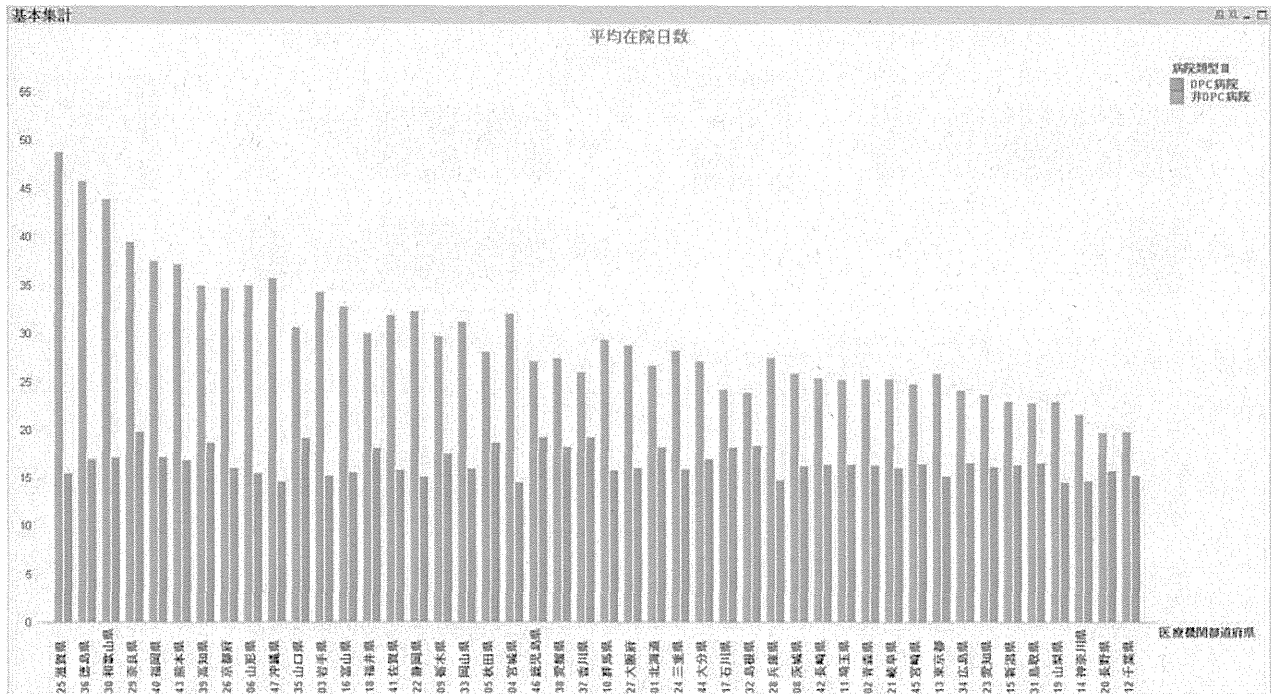
## 結果5. DPC病院と非DPC病院一般病床の入院患者の手術の内容



## 結果6. DPC病院と非DPC病院一般病床の長期入院患者の分析



## 結果6. DPC病院と非DPC病院の一般病床の都道府県別平均在院日数に関する分析



## 考察

- 本研究結果は、医療施設調査、患者調査の分析によって病床の機能、特に一般病床の急性期機能と非急性期機能の差異を明らかとできる可能性を示した。
- 非DPC病院の一般病床は、手術患者、救急患者等急性期患者を受け入れているところもある一方、非常に長期入院の患者の在院が相当数認められ、亜急性期、慢性期の機能を担っている部分がかかなり大きいことが推測された。
- 非DPC病院の長期入院患者は後期高齢者が多いが、必ずしもそれだけには限られず、一般成人、前期高齢者も相当数認められ、これらの病棟が必ずしも非常に高齢の患者のみを受け入れているわけではないことが示された。
- 今回の研究の分析での限界点としては、DPC病院の一般病床のうちDPC病床と非DPC病床を区別できていないことがある。したがって、DPC病院の病床データには一部非DPC病床が含まれていることとなる。しかし、その数はあまり多くないので、非DPC病院の一般病床の分析結果を非DPC病床の特性と見なしても大きな問題は無いと考えられる。今後、医療施設調査、患者調査等でDPC病床か否かも含めて一般病床の機能をより詳細に収集する必要があると考えられた。

## 結論

- 医療施設調査、患者調査の分析から一般病床の機能の多様性を明らかとする手法を示した。病床機能分化を進める今後の医療計画等の策定に有用なデータを提供できる可能性が示唆された。

地域に求められる医療機能と医療提供体制の変化に対応した  
医療施設調査、患者調査のあり方とその評価・分析手法に関する  
研究

(H25－統計－一般－006)

東京医科歯科大学大学院  
医療政策学講座医療政策情報学分野  
伏見清秀

## 背景と目的

- 平成37年(2025年)に向けた医療提供体制において、「高度急性期」、「一般急性期」、「回復期(亜急性期)」、「慢性期」等の病床機能分化が想定されているが、これらの病床群の機能評価手法、調査手法等は重要な検討課題
- DPCデータ、レセプトナショナルデータベース(NDB)の活用が進む中での、医療施設調査、患者調査等の基幹統計調査のあり方
- 本研究の目的
  1. 悉皆性を有する医療施設調査・患者調査データから、地域医療の実態・変遷と、地域医療ニーズと提供体制を評価する手法機能を明かとする
  2. 医療ビッグデータの活用が進む中での医療施設調査・患者調査のあり方を示す



## 方法

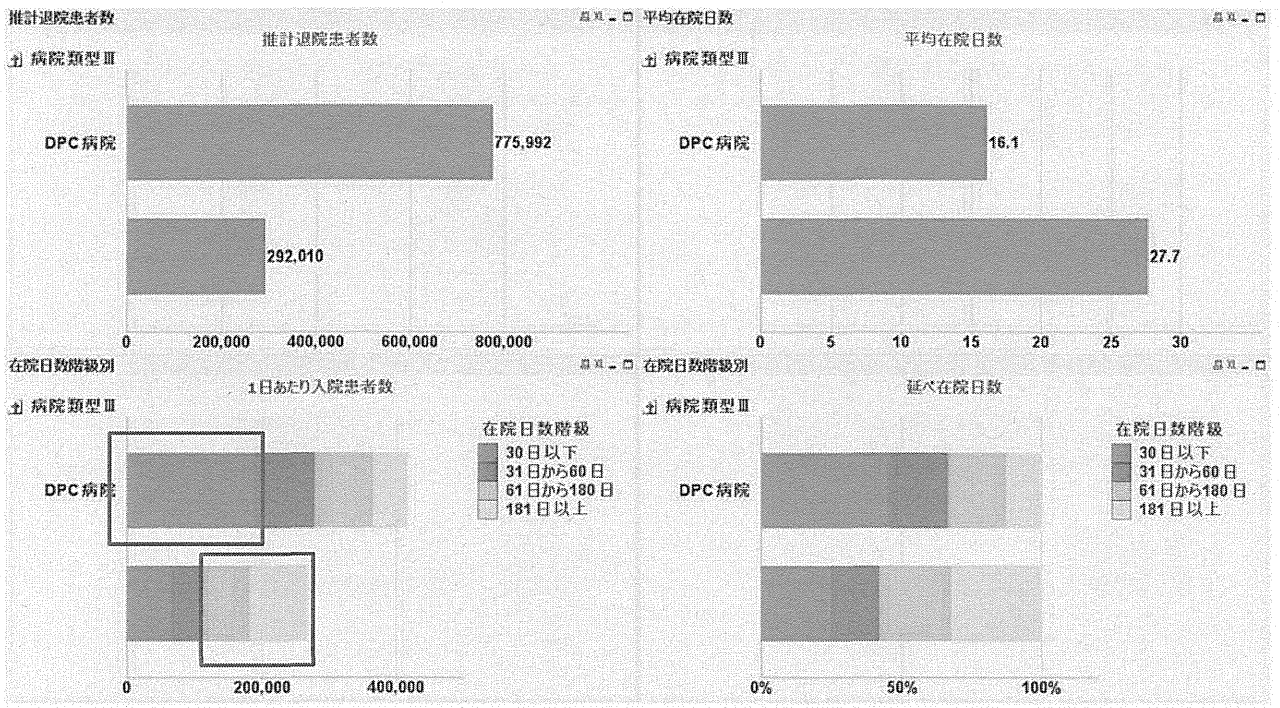
- 患者調査個票と公表されている個々のDPC病院のデータを用いて、都道府県単位のDPC病院と非DPC病院の一般病床入院患者の年齢構成、傷病構造、救急の状況、在院日数等进行分析
- 医療施設調査を併せて使用して、個別医療機関の機能の違いの評価手法を検討
- これらの分析から、高度急性期、一般急性期、回復期、慢性期を特徴付ける医療機能を明かとする手法を検討
- 人口構造予測と患者調査受療率より、傷病構造と機能別医療需要を推計
- DPC、NDB等のビッグデータの活用と医療施設調査・患者調のあり方を検討

### 結果1. DPC病院と非DPC病院の一般病床の基本的な機能の相違に関する分析

	1日あたり 入院患者数	1ヶ月あたり 退院患者数	平均 在院日数	平均年齢
非DPC病院	269,072	291,541	27.7	65.2
DPC病院	418,143	776,461	16.2	59.0

- DPC病院とそれ以外の病院(非DPC病院)について、患者調査退院票を集計し、それぞれの入院患者の特性の違いを分析
- 一般病床の約3分の2をDPC病院が占める
- 非DPC病院では、平均在院日数が11日程度長く、入院患者の平均年齢が6歳程度高い

## 結果2. DPC病院と非DPC病院一般病床の状況



## 結果2. DPC病院と非DPC病院一般病床の入院患者の年齢構造

